

●趣旨説明

●—司会（田中英式 愛知大学経営学部）

大変お待たせいたしました。これより、中国経営管理学会主催の公開シンポジウムを開催します。皆さま、本日はご多忙中にもかかわらず、多数ご来場いただき誠にありがとうございます。私は本日の進行役を務めます、愛知大学経営学部の田中と申します。どうぞよろしく願いいたします。

このシンポジウムは、愛知大学 COE・ICCS（国際中国学研究センター）経済研究会との共催です。また東海日中貿易センター、ならびに愛知大学同窓会からのご後援もいただいております。

これよりシンポジウムの司会は、前半を愛知大学経営学部の川井伸一教授、後半を愛知大学経済学部の李春利教授に、それぞれご担当いただくことになっております。

それでは川井先生、よろしく願いいたします。

●—司会（川井伸一 愛知大学経営学部）

ただいま紹介にあずかりました愛知大学経営学部の川井です。今日のシンポジウム前半の司会を担当させていただきます。

まず、今回「中国企業の海外進出と国際経営」というテーマで公開シンポジウムを開催する趣旨について簡単に説明したいと思います。

近年、中国経済の急成長、国際的な経済のプレゼンスの拡大は衆目の一致するところで、大変注目すべき現象が見られます。

これに関連して、国際的な側面において、この間、外国資本が中国にたくさん入ってきて、中国側から言えば、外資の導入（いわゆる「引進來」）が中国経済の大きな発展の原動力の1つとして注目されてきました。中国経済が国際化する過程は、いわば国内に外国の経済を取り込む内なる国際化の側面が、これまで20年前後にわたって展開されてきました。そのあたりの検討や議論はすでにかんりの蓄積があります。

そういったことを踏まえながら、今回は最近注目され始めた新しい現象について、特に注目してみたいと思います。新しい現象というのは、中国経済が中国の外に拡大していく動き、もう少し具体的に言えば、中国企業が海外に進出する動き（いわゆる「走出去」）が、この数年間で顕著に見られるようになりました。

今回は、このような新しい現象に注目して議論し、





検討してみたいということです。特に今、注目したいのは、中国企業がどのような理由、どのような要因から海外に進出し始めたのか、あるいは進出しようとしているのかという点です。これは政策的な要因、産業組織的な要因、さらには企業の個々の経営戦略的な要因と、いろいろな次元（レベル）が考えられますが、いずれにせよ、どのような背景、理由、要因から、中国でこのような現象が起こってきているのか。これがさしあたり議論すべき大きな課題なのではないかと考えています。

それを踏まえたうえで、さらに海外へ出ていった中国資本の企業が、現地において、もしくは日常の活動において、どのような経営をおこなっているのか。日常の経営のあり方は、当然それ自体が国際経営の重要なテーマになります。これは大変注目される場所ですが、これまで中国企業の海外の現地経営についての実態や情報は、私の見るところ極めて限られていて、あまりよくわかりません。

これからの大きな課題として、そのあたりを究明すると同時に、中国企業の海外進出ないしは国際経営のあり方が、これまでのいわゆる世界における国際経営の多くの経験から見て、どのような特徴、位置づけを示すのか。特に国際経営論においては企業の多国籍化や海外進出要因について、従来先進国の企業をもとにした検討、理論化が進んでいますが、それとの関連で中国の事例をどう見たらよいのか、という点があります。

以上のようなことを考えまして、中国経営管理学会研究大会実行委員会としては今回の公開シンポジウムを組織した次第です。

最後に補足的に言えば、今回の特徴的な組織形式について申しますと、中国経営管理学会第7回研究大会公開シンポジウムの開催にあたり、愛知大学国際中国学研究センター（ICCS: International Center for Chinese Studies）から共催の協力を受けております。これについてはご存じのように、2002年に文部科学省の21世紀COEプログラムの1つとして、愛知大学の国際中国学研究センターが選ばれて、以来活動してきています。そのICCSの経済研究会が、まさしく「中国企業の国際化・海外進出」ということを主要検討テーマとして調査研究を重ねてきました。実を申しますと、実行委員会の李春利さんと私、今日の報告者の朱炎さんの3名は、そのICCS経済研究会のメンバーでもあります。そういうこともありまして、テーマおよび人的な重なりという側面で今回のテーマを選びました。

趣旨説明は以上のとおりです。

引き続き、今日のシンポジウムについて、まず報告者の方を簡単にご紹介させていただきます。報告順に従って進めさせていただきます。

まず第1報告者として、株式会社富士通総研主席研究員の朱炎さんです。朱炎さんはオールラウンド・プレーヤーで、何でも手掛けてしまうとお見受けしてい

ます。今回も多面的な議論を期待しています。

2番目の報告者は、日本経済新聞論説委員の後藤康浩さんです。後藤さんはマスコミの一員として、日ごろから中国の経済の現実や問題点について、いろいろと鋭い指摘をされているとお見受けしています。

3番目の報告者は、南山大学経営学部の吉原英樹さんです。吉原さんは高名な方で、日本企業の国際経営の調査研究について大変な蓄積をお持ちの方です。そのお立場から、中国企業の国際経営のことを、どのように把握されるのかといったことを、ぜひお聴きしたいと思います。

最後に、立命館大学国際関係学部の中川涼司さんです。中川さんは一貫して中国のIT産業、電子・電気産業の研究をされています。今回もそういうことを踏まえて専門的な報告をお願いしたいと思います。今年の3月まで北京で研修をされていて、いろいろな情報収集をされていると思われます。

以上の4名の方に、申し上げた順番で、それぞれ20分間報告をいただくこととなりますが、1つご注意を申し上げます。みなさんのお手元には報告に対する質問用紙が1枚あるかと思えます。その質問用紙を、このシンポジウムの第I部が終わる午後3時の段階で、いったん報告者席に提出していただきたいと思えます。どうぞご協力をお願い申し上げます。

では早速、第1報告として朱炎さんからご報告をお願いいたします。

